

外部評価チェックシート（行政評価手法への意見）

意見

テーマ設定の効果と課題

【第1部会】

今年度からのテーマ別評価では、各事業の関連性が見えやすく、評価作業が円滑に進められた。テーマが統一されていたことで議論と理解が深まり、評価のしやすさにつながった。

一方で、一つの事業を評価するにあたっては担当課の所管外の情報を広く踏まえて議論する機会が増えたが、内部評価シートやヒアリングの場において、一部、他課との連携が不十分であり、情報提供が偏っていると感じられるケースもあった。行政評価をより実効性のあるものとするためには、所管課間の横断的な連携と情報共有の強化が必要である。

【第2部会】

明確なテーマのもと絞られた事業を評価対象としたことで、踏み込んで充実した議論をすることができた。

一方で、今回第2部会で評価した「公共施設マネジメントの強化」というテーマにおいて、各事業を個別に評価する際は、修繕や維持保全といったハード面が中心視点となりがちだが、テーマを広く捉えて評価するに当たっては区民目線や使い勝手といったソフト面の視点も重要であり、むしろ利用者にとってはそちらの方が本質的な関心事である場合もある。そのため、事業評価とテーマ評価で視点が錯綜することがある。こうした混乱を避けるためには、最初から「テーマは広い視点で」「事業はその事業の視点で」といったように、評価の視点を明確に設定しておくことが望ましいのではないかと。

評価における視点について

【第2部会】

現在は、内部評価・外部評価ともに前年度実績を踏まえての評価を行っているが、数年間かけて行う公共工事など、特に中長期的な視点が求められる事業においては、前年度分の実績だけを踏まえた評価は不十分である可能性がある。計画事業は毎年度計画の見直しを実施しており、見直し後の計画に基づいて計画どおり実施されたとされる事業が、必ずしも区民目線から見ても順調に進んでいるとは言えない。今後は、数年間に渡る視点を持って評価するという考え方も検討してはどうか。

【第3部会】

本年度の評価作業を通じて、他自治体との比較を取り入れた評価の有効性が改めて認識された。特に中野区への訪問を通じて、施策や組織運営の違いを実地で確認できたことは有意義であり、今後は近隣自治体とのベンチマークを行うことで、新宿区の施策の改善に資する可能性がある。23区全体での比較は項目が多く分かりづらいため、例えば特徴的な自治体を数区選定し比較したうえで評価する仕組みを検討してはどうか。

ヒアリングについて

【第1部会】

現在は事業ごとに担当課の管理職が出席しているが、その場で事業の詳細な内容についての追加質問が多数挙がることを踏まえ、管理職のみの出席とするのではなく、事業内容により精通している実務担当者も一緒に出席する運用としてはどうか。

内部評価シートの作成について

【第1部会】

内部評価シートの作成に当たっては、何も知らない第三者が読んでも事業の背景や課題、取組内容が明確に把握できるものとなるよう意識してほしい。また、年度当初と年度末で、主な課題や取組方針が全く同じ記載内容となっているものが複数見られたが、一年間事業を実施したことで生じた進捗や変更内容を踏まえれば、全く同じ記載とはならないはずである。

内部評価シートの記載内容の質は担当部署によってばらつきも見られたが、質の平準化も図ってほしい。

【第2部会】

テーマ別評価シートについて、全体を束ねる核となる資料であるにしては、一見するだけでは何のシートであるか分かりにくい。必要情報（テーマ名など）は太字にして強調するなど、視認性の面からの工夫を講じてほしい。

内部評価シートに実績値として記載されているものについて、全体母数が示されていないため進捗状況を判断・評価できないケースが散見される。区民に事業の進捗等をより分かりやすく示すためにも、全体量が分かるものについては評価シートに情報を記載するよう、フォーマット改善を検討してほしい。

年度の当初時点と末時点にある「主な課題」「取組の方針」が、多くの事業において文言的にはほぼ同じだが、視点を変えないと同じ情報が出てくるだけになってしまう。「主な課題」「取組の方針」欄の記載内容については、「を行う必要がある」のように業務タスクを課題として記しているものも多いが、目的に対する手段の有効性を評価・検証する視野から、タスクを遂行する上での改善点とそれへの対応策の検討を示すものとなるよう、記載において工夫をしてほしい。

【第3部会】

行政評価制度は有意義な仕組みである一方で、情報が体系化されておらず、定性的な記述が中心となっている点に課題がある。制度の実効性を高めるためには、時間をかけてでも体系的なKPIの整備や定量的な指標の導入を進めていくべきと考える。

評価対象事業の選定について

【第1部会】

事業予算がついていないなど事業規模が極端に小さい事業については、内部評価シートに記載された情報量も少なく、評価の対象とすることに疑問を感じた。対象事業の選定にあたっては真に評価の必要がある事業に絞り込むようにしてほしい。

【第2部会】

本庁舎整備など、具体的な事業内容がまだ検討段階にあるような事業は評価すること自体が難しかった。多様な視点や意見が存在し、今後の方向性や在り方を検討する余地が大きい事業については、むしろ評価テーマとして設定する方が、より多面的かつ深い議論を期待できるのではないかと。

今後の評価テーマについて

【第2部会】

テーマを選定する際には、引き続き区が重点テーマとして地域へ説明している取組などを候補とするのに加え、行政の枠に収まらない視点から問題提起的にテーマ設定することも考えられるのではないかと。例えば今回の第2部会の議論の中では、本庁舎の機能の検討と関連づけて、地域センターや特別出張所の在り方について委員の関心が強かったことから、これをテーマ候補とすることも選択肢としてありえるのではないかと。

【第3部会】

新宿区には、他区と比較して大学や大病院が多く集積しているという特徴がある。こうした地域資源を活かした高齢者施策を評価できるようなテーマを対象にしてほしい。